

## あんしん 取材部

# 〈三條市〉 県央地域の医療再編と 市民説明会を訪ねて

10月29日(日)、三條市総合福祉センターにおいて、県央地域の医療再編と県央基幹病院の整備について多くの市民が参加した。\*

(※三條市、柴市、加茂市、田上町、弥生村)



▶ 済生会新潟県央基幹病院パース図

▶ 三條総合福祉センター



ており、済生会新潟県央基幹病院を核として、地域の各医療機関がそれぞれ役割を分担し、相互に連携を図ることによって地域がひとつの病院として機能することを目指している。



▶ 遠藤直人病院長予定者 ▶ 田中吉明三條医師会長



▶ 質疑応答

な手術、入院、外来に対応し、済生会三條病院などでは高齢者の医療や軽病患者的の救急、入院、外来に対応する。

(※燕三条駅・三條駅前・フェジ近く)



市民説明会には、三條市福祉保健部長・新沼保健部田中参事、済生会吉田常任理事、三條市消防本部、三條医師会田中会長、県央基幹病院遠藤直人院長予定者(現燕労災病院長)が出席。



▶ 討論を展開しながら質問する市民

介状がある人を受診します。危殆緊急なとやむを得ないときは紹介状なしでも受け入れます。遠藤院長の的確な説明は、今後の県央地域の医療に明るい希望を感じた。

先見の明あり十日町市松代在住のドイツ人カール・ベンクスさん  
社長 安藤 幸広

2023年暑かった猛暑も過ぎ秋が深まる。新そばの食歩きがしたくなり自然と足が向くのが小千谷・十日町・津南・松代方面となる。同地域には美味しいそばを振る舞う蕎麦家さんが40軒ほど点在しており、取り分け晩秋の休日ともなれば蕎麦好きが多方面から集まり、どの蕎麦家さんも渋滞待ちや行列が出来ている。

振り返ると今年の夏は新潟県でも猛暑日が続きその影響で一番心配だったのが「コシヒカリ」の品質・食味・収穫量などであった。しかし収穫量もほぼ昨年並みのお米。精米後の白濁は米粒に若干の白濁があるものの食味は変わらず美味しく頂けてはとほとしていた。やはり新米は美味しくない。ただし一等米がないに等しい状況のように米農家の収入は残念ながら減った。2023年夏は日本全国で災害級の猛暑であった。そして猛暑という異常気象も毎年毎年続いている。そんな事から関東圏で

は猛暑地域から少しでも涼しく過ごせる地域に移住する人が増えている。

「都市デー」タパツク2023年には関東圏2023都市の8月平均気温の記載がある。夏涼しいランキンクで第1位は茨城県北茨城市(27.0℃)、第2位は茨城県高萩市(28.2℃)、第3位は栃木県日光市(28.3℃)、第4位は茨城県日立市(28.5℃)、第5位は千葉県勝浦市(28.8℃)となっている。逆に酷暑順ではワースト2022位が群馬県館林市と太田市(32.5℃)、ワースト2019位が群馬県伊勢崎市・埼玉県熊谷市・行田市・本庄市(32.3℃)となっていた。埼玉県は猛暑が起きやすい土地柄となっており、流石に夏の平均気温差の4℃は大きく100年以上35℃を超える猛暑日がない。車で1時間半ほどで行ける東京に近い・夏エアコンがなくとも過ごせるなど太平洋側に面する房総半島勝浦市は涼しい移住先とし

て一番人気になつて勝浦市は15,700人ほどの人口ではあるが将来は17,000人の人口を見込んでいるという。ちなみに三条市の2023年8月平均気温は30.6℃であった。そこで新潟県内でも移住先候補地など調べるのと何となく十日町市周辺が該当した。十日町の2023年8月平均気温は28.3℃、2022年8月平均気温は25.1℃であった。そしてこの地にはドイツ人で古民家再生で有名な「カール・ベンクス」氏が1993年から定住している。カール・ベンクスさんは1942年ベルリン生まれ。20歳の時に東西冷戦の象徴であるベルリンの壁を求め東側から脱出に成功。家族とは10年間別れ離れになるも、もともとお父様の影響で日本に興味を持ち空手を習っていた縁があった。1966年に日大の空手部に入部。卒業後は在日ドイツ商工会から仕事で建築関係の仕事を通じて建築関係の日本人職人の技量の高さを

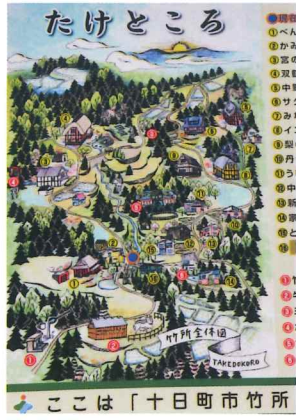
を知る。知り合いの代大工が「新潟の松代に米を買いに行くとカールさんの好きないから一緒に行かないか」と誘われ初めて訪れた当時の松代町竹所(たけどころ)の地区に一目惚れ。この地区を取りたいと決意する。それから現在に至るまで十日町地区の松代や十日町にて60軒ほどの古民家再生を手掛け再生民家に住む移住者も増加している。当然再生した古民家には首都圏からの移住者も多い。竹所地区はまつた田駅から越後松代御田群星峠の御田八向かう途中の国道6号から山の方に入った所にある集落。新潟県人としては夏は住みやすいかもしれないが、誰も知らない地域でもあり定住は本当に大丈夫だろうか。と危ぶむがそれを上回る魅力が自然環境や古民家再生住宅にはあるのだろうと



◀カール・ベンクス氏

松代竹所地区は古民家再生の芸術作品地区になつて、観光客や散策者も多し(写真参照)。また雪が消える頃には松竹所出身者を故郷の竹所に招き皆で山菜を採り山菜の天ぷらパーティー等も主催して、地域にもすぐく溶け込んでいて古き良き故郷を忘れないような活動もしている。

氏は1999年カール・ベンクス・アンド・アソシエイツ(株)を設立。様々な受賞歴もあるが、2001年「新潟木の住まい」コンクール入賞。「2007年第2回安吾賞新潟特別賞受賞」「2017年平成28年度ふるさとづくり大賞内閣総理大臣賞受賞」他、十日町・津南地区は、野菜は新鮮で種類も豊富。春は山菜・夏は涼しく・秋は新米と蕎麦・三味・冬は酒蔵もあり新酒としんしんと



**今月のクイズ**

Q. 人船の体の部位です。何処の場所でしょうか？ ①盆の空窪 ②弁慶屋のなきどり ③示指 ④Pタムのりんご

Vol. 415 答: ①(田)と②(田)田

当選者発表 ▶ 武田美千恵さん  
相森隆輔さん ▶ 渡辺光雄さん  
拓植信子さん ▶ 山口恵里さん

955-0085 十日町市代官島  
〒955-0085 十日町市代官島  
955-0085 十日町市代官島  
955-0085 十日町市代官島

1月10日

降り積もる雪景色と生活のための除雪を楽しみ、次の春を待つ暮らしとなる。雪が降る前にドライブを兼ねて松代竹所地区にカール・ベンクスさんの古民家再生の作品見学に訪問されます。事をお勧めいたします。